

VIVID LETTER

コロナ禍にみる

障がい者支援の課題	1
研修報告	2
各事業所報告	3
ひとこと通信	4
報告・今回のいちおし	4



“VIVID”は高次脳機能障がい者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID(ヴィヴィ)
〒161-0033
新宿区下落合 4-20-16 ヲレ目白 103
TEL : 03-5849-4831 FAX : 03-6908-3364
Eメール hbd-vivid@vivid.or.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>
発行責任者 北村とし子

コロナ禍にみる障がい者支援の課題 そして、これからの社会

新型コロナウイルス(以下コロナ)感染の第1波から2年、いまだ収束の見通しはつきません。

VIVIDが運営する就労継続支援B型事業所フレッシュスタート目白(以下フレスタ)では、20年4月、感染拡大予防のために一時閉所しました。通所者には基礎疾患を抱える人が多く、通所者の大事をとっての措置でした。しかし、通う「場」と「機会」がなくなることは、心の安定や心身への影響があり、居場所でもあるフレスタの役割を改めて自覚しながら、通所を再開させました。当時、感染者が出てしまった事業所はニュースとなり、学校等は休校、一般の店舗等には休業が要請される事態でありながら、福祉施設の閉所の判断は現場に丸投げされているという状況で、戸惑いしかないという声が福祉施設からあがっていました。

その後は、緊急事態宣言中の通所は二部制にしたり、小さな折り畳み机を多数購入し長テーブルの代わりに利用したりと、工夫を凝らしながら営業を続けていますが、障がいがある人を相手に気の抜けない毎日です。障がい者施設だけでなく、高齢者施設、保育園など、感染の意味が解らない、予防対策の手洗い・マスクをきちんとするなど、が苦手な人を対象とするところは、いずれも同様のことでしょう。



マスクが外れないようにする工夫もあれやこれやとスタッフが試行錯誤。いまは、毎朝、メガネに括り付ける方法が定着しています。

そのうえ、経営難に直面している福祉事業者もあると聞きます。事業者への報酬は、利用回数を基にした日額(実績)払いで算出されるので、コロナ禍による利用者減=減収となるためです。

また、生産活動で利用者が工賃を得るB型事業所などでは、コロナの影響で販路や受託作業が減ってしまい、工賃が減少している事業所も多くあるようです。

事業所が受け取る毎月の基本報酬は、平均工賃額によって決まる単位×利用者数×月間稼働日数によって決まります。つまり、工賃減少が基本報酬に影響するわけです。21年度は「コロナの影響を踏まえた柔軟な取り扱い」がありましたが、今後への不安はぬぐえません。

これらは、かねてから指摘されてきた日額払い

制度と工賃額によって決められる基本報酬制度の弊害です。昨年の報酬改正によって、「平均工賃月額に応じた報酬体系」と『『利用者の就労や生産活動等への参加等』をもって一律に評価する報酬体系』のどちらかを選択(選択後は3年間変更不可)することができるようにはなりませんが、後者の報酬は低く、結局、抜本的な改正にはなっていません。

さらにいえば、生活へのサポートが必要な通所者は平時でも多く、コロナ禍でいっそう支援を必要とする場合がありますが、その点を考慮した報酬体系とはなっていないわけです。

コロナは、社会のひずみを顕在化させました。コロナ禍によって、自分は実は弱者の側にあったのだと、気づかされた人も多いのではないのでしょうか。「かねてから指摘されていた」ことの多くが放置されてきた結果が、非常時の対応をより困難にしているといえます。

分厚い福祉なるものがない中でこぼれ落ちていく人たちの生活を、どのように支えていくのか。それは、単に地域の助け合いや、支援者の頑張りなどという共助に頼るだけであってはなりません。共助の存在を、公助の免罪符にしてはならないのです。コロナ以前の日常を取り戻すといわれますが、公助の薄い以前の日常を取り戻すので

はなく、これだけの災禍を受け可視化された課題に気づいた人たち、弱者の側に自らを投影することができる人たちによって、今までとは違った社会を構築していくときです。

東京大学の熊谷晋一郎さんは、コロナ禍の状況を、「社会環境が自分のニーズを十分に満たしてくれない状況であるという意味で、社会モデルの観点からすると、総障害者化が起きた。…潜在的にはみんながこれまでにないほど不便を経験しているのだから、連帯のチャンス」(NHK 福祉情報サイト「ハートネット」より)と言われます。障害は社会の側にある。困りごとを取り除くとは、社会が困りごとを抱える人に合わせていくことという社会モデルの考え方からすると、多くの人に課題を顕在化させたという点で、この状況は、社会を変えるチャンスなのでしょう。

福祉、教育、医療の現場は人の介在なくして成り立ちません。人の重要さがわかっている者として、また現場を知る者として、現場から声をあげ、誰にとっても住みよい社会をつくっていきたいと思います。

(事務局長:金尾敏恵)

研修実施報告

就労継続支援 B 型事業所向けの外部研修は、障がい理解や支援方法がテーマの研修とは別に、販売や物づくりがテーマの研修も多いことが特徴的です。

今回「福祉におけるブランディングについて」という、自主製品がテーマの研修に職員が参加しました。その中で、自主製品として何を販売するかということは、その事業所の理念や大事にしたい価値観に基づいていることがベストだという話がありました。そして、この点について持ち帰って話し合うことが宿題でした。

法人職員全員が集まる合同スタッフ会議で、

ワークシートをもとに意見交換を行いました。「事業所が大事にしているところ」「事業所の役割とは何か」など、一人ひとりが思っていることを出し合ったところ、概ね同じ方向を向いて働いていることがわかりました。

現在作っている自主製品は、犬用クッキー、ビーズアクセサリー、くるみボタン、雑巾。これらが法人の価値観と紐づいた売り方をできるか、これからの課題です。

(研修担当:遠藤伸)

就労継続支援 B 型事業所 フレッシュスタート目白

フレスタの活動風景をお届けします。(管理者：遠藤伸)



12月開催の「新宿区内障害者福祉施設作品展」にむけて、利用者全員が協力して作品を制作しました。初の試みでした。完成品はこちら



作品展を見学

作品展の見学に行きました。他事業所の作品にも、興味津々。ショップ運営に生かそうとついでに百貨店も見学。久しぶりの外出企画を楽しみました。



2021年忘年会

12月には事業所内で忘年会を行いました。楽器演奏や劇、手品披露など、利用者が出し物をして楽しみました。

今年はクリスマス会と誕生会も合同で行おう！ということで、昼食は豪華なお弁当にケーキもつきました。新型コロナウイルスの影響で大変なことも多くあったので、皆で笑い合える時間がより大切に思えます。

写真：右上・寸劇、右下・木・々（もくもく）の弁当&ケーキ、左上・バイオリン演奏、左下・手品を披露



高次脳機能障害相談支援 VIVID

【相談事例から】…退院後の介護に影響するコロナ事情

誰もがコロナの話から始まるこの頃です。コロナの影響は相談の現場にも及び、最近続けて病院退院後の相談がありました。

病気やけがによる高次脳機能障がいには、問題行動を引き起こすことがあります。従来であっても、当事者は混乱し、当事者や家族は状況の受容に時間がかかります。

それが今、入院期間中の面会は感染防止のため制限され、当事者は混乱の中、家族に会えな

いことで不安を増し、家族は当事者に会えず、病院からの説明だけでは状態を理解できない状況です。

家族は症状に触れる機会が少ないまま退院となり、退院後、状況への対応に戸惑い、症状の受容を従来以上に難しくしています。

このような状況は、まだしばらくは続くのかなと感じています。

(管理者・相談支援専門員：太田三枝子)

ひとこと通信

フレッシュスタート目白（フレスタ）の利用者さんのコーナーです。今回は、奥山直樹さんにインタビュー！

奥山さんといえば”音楽”のイメージです。

高校生の時に友達とフォークギターでの演奏を始めました。

アリスの「今はもう誰も」とか。

高3になるとバンドを組んでロックに挑戦。

矢沢永吉の「黒く塗りつぶせ」とか RC サクセッションとか、ボーカルの選曲に合わせて演奏し、文化祭で披露もしました。

ベースを買ったのは高校卒業後で、バンドをつくって、メンバーが作詞作曲したオリジナル曲の演奏もしていました。

バンドはいつごろまで？

30歳前までやっていましたけど、活動は自然消滅。

でも、今でも趣味でやっているメンバーもいますよ。

自分は受傷して、今は弾けなくなって演奏することはないですけど。

ギターは今でも家にあって、置く場所の関係で

処分しようかと迷っています。

とっておきたいけど無理かな…。

今は聴くこと中心ですか？

そう。聴くジャンルはいろいろ。アース・ウィンド&ファイア、イーグルス、カルチャー・クラブなどの洋楽も好きです。レコードはあるけど、プレイヤーはぼろくて使っていないな～。

アイポットなどで懐かしのポップスやロックを楽しんでいます。

他にはまっていることは？

アニメ！特に呪術廻戦、東京リベンジャーズ、鬼滅の刃。

全部、今はやりで最前線ですね。お話ありがとうございました。



コーヒー豆の選別作業をする奥山さん

ご寄付の報告

この紙面を使って、ご寄付の報告を行っています。

●VIVID へのご寄付

VIVID LETTER 前号の報告後・2021年8月1日～1月31日までにいただいた寄付金の合計は、延べ16人、114,000円でした。

●フレッシュスタート目白へのご寄付

フレスタは、毎日、たくさんの品物をご寄付いただいています。おかげさまで、リユースショップは、毎日、品物でいっぱいです。

8月110件、9月135件、10月180件、11月159件、12月147件、1月85件でした。

みなさまのご厚意で VIVID の運営も順調です。大勢に支えられていることに感謝です。

ご寄付のお願い

ご協力はいつでも受け付け中！
よろしくお願いします。

【銀行口座への振込の場合】

三井住友銀行 国立支店
普通 7854639

名義 特定非営利活動法人 VIVID

【郵便振替口座への振込の場合】

郵便振替口座 00130-7-780312

加入者名 特定非営利活動法人 VIVID

今回のいちおし マスクチェーン

いまや、マスクは必需品。

そんな生活の中で、ちょっとマスクを外したいとき、どうされていますか？

テーブルにおいて食事をしていたら、マスクが床に落ちてしまった！ かとって、はずすたびにカバンにしまうのは面倒。-----そんな時にはこれ！
マスクチェーンはいかがでしょう？



店外からもみえるようにディスプレイ

水分補給、食事、外歩きのときに役立ちます。

フレスタで手作りしています。

メガネチェーンとしてもご利用いただけるように制作しています。プレゼントとしても好評！

2つとない品をぜひお買い求めください。

1本 500円です。

編集後記

意地でも3/1発行を。とやってきましたが、今回ばかりは白旗宣言。少し遅れての発行になってしまいました。(金尾)